

Title	未上場石油卸会社買収前の企業評価
Sub Title	
Author	横山敬子(Yokoyama, Keiko) 太田康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第729号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0729">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0729</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 未上場石油卸会社買収前の企業評価

石油は鉄と共に戦後の高度成長を支えてきた二本柱であったが、二度にわたるオイルショックで石油需要は落ちこんだ。更に円高の進む中、政府の規制緩和の方針が石油業界にまで及びさまざまな保護に守られた石油業界も最早甘えが許されない時代となってきた。自由競争が施行されると現在59000ヶ所もある給油所が4000ヶ所程度にまで減少していくと予想されている。従って元売りばかりでなく石油卸会社にもかなりの統廃合が起こると予想される。これからは強力な石油卸会社が弱小の卸業者を買収していく時代になっていくと思われる。本論文では今後起こりうると予測される石油卸会社の買収の際の企業評価に一助となるものと考えていく具体的には現在ある企業評価方法を参考に定量定性両方面をあわせた新たな企業評価方法を考えていく。定量研究では未上場会社という立場を考慮して5本の企業評価方法を考え、業界の人に意見をきく事によって洗練させた。次に当年の財務指標で翌年の企業価値を予測する事を考え回帰式を作った。次に企業を構成する定性要因についてのランキングを双対尺度法を用いて作製し、最後に定量定性両要因をあわせた企業ランキングを双対尺度法を用いて行った。